

スマイル タウン

2021
9・10
月

第315号

ひの社会教育センター は、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいを創る沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。

青少年講座「子どものアトリエ」



アートの世界を楽しもう！

- シリーズ 「SDGs を自分ゴトにしてみた！」③
- 表紙の講師は…「子どものアトリエ」講師・あべななえ 先生
- 2021年度 3つの“まなび”
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼

SDG s を自分ゴトにしてみた！

2030 年に向けた国際コンセンサス「SDGs」。センターのある日野市も SDGs 未来都市に指定され、様々な所で 17 個の目標ロゴマークを目にするようになってきました。SDGs の目標はどれもシンプルでとても大切そう。しかし、この目標を達成するには自分たちに何ができるのでしょうか。

今年度はひの社会教育センターの職員がそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、「自分ゴト」としてとらえ、その分野の実践家や専門家と対談しながら SDGs の取り扱い方について考えていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



シリーズ

「SDGs を自分「ト」にしてみた」③



5 ジェンダー平等を実現しよう

「性別にかかわらず平等に機会が与えられ、すべての女性や女の子が能力を最大限に発揮できる社会をつくること」が目標として掲げられています。

今回お話を伺うのは、あかしあ法律事務所 倉重 都 弁護士。

医学部入試における女性差別対策弁護団にも参加し、ジェンダー課題に関わられています。

一言で「ジェンダー平等」といっても意味が広く多岐にわたるため、コロナ禍に増加しているといわれる DV 問題や選択制夫婦別姓について伺いました。

インタビューは、社会教育協会事務局職員の星野一人です。教育活動の中で性差別について出来ることは何か、考えていきたいと思っています。

「ジェンダーから自由になる」

星野…まずは、先生がジェンダー平等に関わる分野に取り組むようになってきたきっかけがあれば教えてください。

倉重…私は日本全体がジェンダーにとらわれているように感じています。子どもの頃、弟もいるのに、お手伝いをさせられるのは自分だけなの

はなぜ？という疑問に、大人からの明確な答えはなく、「男だから」「女だから」という差別をおかしいと感じていました。そして、それを当たり前と受け止め、疑問に感じない人が多いと思います。

星野…よくある光景として、イラストや CM などから入ってくる情報でも、自然にそうなっていますね。

倉重…「ジェンダー平等」という用語が一人歩きしているようにも感じます。「ジェンダー」自体に「こうあるべき」という差別概念が含まれるため、私はジェンダーから自由になるべきと考えます。

「コロナ禍での社会問題」

星野…コロナ禍、DV 被害が増えているという報道を目にします。

倉重…元々 DV をしていた人が、家に居る時間が長くなったことでその時間や量が増えた、というだけで、DV をする人が増えたという統計ではないと思います。DV の定義は 4 つあり、身体的・精神的・性的・経済的な暴力。一番表に出やすいのが身体的暴力で、ただそれも一部しか表面化しません。そして、より深刻なのが、威圧。無視や暴言、壁をなぐるなど、恐怖を与え、自分の思い通りにする、そこには支配の関係があります。

星野…支配の関係が続くことで、追い込まれて身動きがとれなくなるということでしょうか。

倉重…お前はだめだ、という洗脳をされるんですね。相談の中には、殴ってくれた方がまし、あざがあれば気付いてもらえる、と話す人もいます。

星野…DV する側に見られる特徴は？

倉重…そんな人に見えないといわれることが多いです。夫からの DV が始まるタイミングが、結婚して妻が自分の苗字になったとき、妻が妊娠したとき、の 2 つと言われています。

星野…「見えないものを伝えていく」ということが大事」であると思います。外から見れば問題がなさそうに見えるのに、実際は、ということがあることがわかります。

倉重…日本の社会で育った男性は、多かれ少なかれ、自分が稼ぎの主体であり、支配する気持ちがあると感じます。本人のせいではなく、サザエさんに象徴されるように、小さい頃からジェンダーだらけの中で育っているのです。「家事を手伝う」というのは男性側に使われる言葉です。原則は女性がやり、例外で男性がやるのがえらい、という風に思われます。「家族サービス」も「イクメン」も、原則と例外があるのが不自然。そして、時代

が大きく変わるときというのは、女性側がこうでありたいという反対意見もあります。そうした文化がある以上、完全には変わらないのが現実です。

社会教育的取り組み

星野…教育に関わる者として、そもそも発生しないよう、どうしていけばよいのでしょうか。

倉重…まずは夫婦別姓だと思えます。家父長制度が文化に残り、日本の風土になつていて、それが支配に入るように錯覚させるのです。苗字は家庭の「名前」に過ぎず、同姓を名乗ることが必要なら、どちらの苗字でもいいし、何か別の苗字にしたいですね。夫側の苗字を名乗ることでお互いに勘違いが生まれるのだと思います。

星野…先生から見て制度導入の見通しはいかがですか？

倉重…まだ当分厳しいと感じます。先進国の中、同姓を義務付けている国は日本だけです。

星野…そうした問題も、ひとつひとつ話題にして話すことが必要かもしれないですね。また男性の学び、も重要だと感じます。

倉重…医大や都立高校での入試差別も明るみになりましたが、成績順に上からとると女子が多くなるという理由はおかしいですね。

—終わりに。社会教育の視点から、取り組めることは何か、ジェンダーについて話すことや、発信することについて話すことや、伝えることを「特別じゃない雰囲気」で、伝えていくことを大事にしたいと思っています。

プロフィール

倉重 都さん あかしあ法律事務所に所属。製薬会社での営業職として10年以上勤務した後、弁護士に。元「ワクチン薬害訴訟弁護団や医学部入試における女性差別対策弁護団」にも参加。



(左)倉重弁護士
とても丁寧に、わかりやすくお話しくださいました。



表紙の講師は…

子どものアトリエ講座
土曜日(月2回) 14時〜16時
講師 あべななえ 先生

プロフィール

絵本の専門店に勤め、ワークショップスペースで子ども向けの工作教室を開催していた、ななえ先生。センターのお付き合ひも10年以上になり、夏休みのチャレンジ教室を手がけてきました。この「子どものアトリエ講座」も開講して3年半。今ではキャンセル待ちも出るほどの人気講座です。

教室の様子

子どものアトリエ講座は、ななえ先生の「工作」クラスと、あきこ先生の「絵画」クラスを交代で行う月2回開催。

この日は、ななえ先生の「工作」クラスにおじゃましました。今回作るのは「まわり灯ろう」。中の電球の発する熱で風を起こし、上部の扇風機状にカットした画用紙が回転し始めると、灯ろうも回ります。

灯りが透けると子どもたちの貼り付けたさまざまな模様が生み出され、とても幻想的。



先生に聞きました!

「対象が小学生なので、1年生でも作れて、6年生でも物足りなさを感じることなく取り組める内容にしています。最初の説明の時間は、にぎやかにしていても、いざ一人一人が絵を描く、はさみで切るなどの作業に入ると、ぐぐぐと集中する時間が必ずあるんです。

月に一度のこのクラスは、毎月同じ子たちと一緒にでき、気心も知れてきます。次の作品のネタを考えると、『あの子、これ楽しいかも。』なんて顔を思い浮かべながら。子どもたちの手先が器用になったり、成長も感じられ楽しいです。」と、終始穏やかな雰囲気なのだな先生。

作品のネタは、季節に合わせたものや、素材も紙、粘土、毛糸とさまざま。つい、大人も作りたくなります…。

そんな気持ちになった方へオススメ『ななさんのヒュッゲな工作の会』

麦わらのストローを使って、北欧の伝統装飾ヒンメリとストロースターを作ります。

10月17日(日)10時〜11時半

詳細はひの社会教育センターまで。



↑実物を見せ、目の前で切ったり貼ったり。

2021年度 3つの“まなび”

世界一しあわせな国のおはなし お話し会

オンライン講座

講師：ピーダーセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）

5月のはじまりの回、8月の2回目を終え、多くの方にご参加いただきました。2回目のゲストの澤渡夏代ブランドさんが「コロナ禍、不自由なことが多い中ですが、唯一良かったことはオンラインが充実し、こうして日本の皆さんとお話できることは嬉しい。」とおっしゃっていたことが印象的でした。

3回目のテーマは「デンマーク×子どもの学び」、4回目は「デンマーク×大人の学び」。学びつづけ、伝えつづける。これは生涯学習・社会教育のテーマでもあります。グループワークを取り入れ、みんなで学ぶお話し会です。

申し込み受付中!!

日時 11月28日(日) 15:00~16:30

3回目テーマ「デンマーク×子どもの学び」

参加費 2,200円（早割り1,650円 先着20名限り）

元センターリーダーのえびちゃん。
2000年に、センターの「高齢者福祉視察の旅」に参加したことがきっかけでデンマークに留学。
その後デンマーク人の夫と結婚し移住。
日本での講演活動などでも活躍中!

今後の講座予定

4回目 2022年 2月27日(日)

テーマ「デンマーク×大人の学び」

参加費 2,200円（早割り1,650円 先着20名限り）



子どもたちと未来のために、地球を守る “未来へのバトン”サミット2021

気候変動 # 地球温暖化 # SDGs # 持続可能・維持可能
次世代へのバトン # 子どものためにできること

2021年11月(11/3~27)開催の“未来へのバトン”サミットの受付が開始されました!

このところ各地でおきる異常気象と呼ばれる事態も、温暖化が引き金になっている説があります。

もはや気候変動への行動は待たないです。私たちがこれからどう暮らし、どう行動していくべきか。それぞれが考える機会を11月にもちましょう!



シンポジウム

現地参加チケット



オンライン

参加チケット

参加チケットは上記QRコードからWeb決済でお求めください

後援



環境省



東京都環境局



日野市

主催：公益財団法人 社会教育協会

自然保育ゼミナール 開講

私たちは50年前から野外教育を始め、その流れの中で2009年より『森のようちえん』事業をスタートさせました。

このゼミナールにはこれまでの活動の中で見てきた大切なことや、私たちがもっと学びたいこと、学びを深めたいことをギュッと凝縮しました。みなさんもぜひ一緒に学びませんか?

▽こんな方におすすめのゼミナールです▽

- ☐ “自然保育”というキーワードが気になった方
- ☐ 保育園・幼稚園等、保育の現場で自然の中での活動を取り入れたいと感じている方
- ☐ 自分の子どもに自然活動を取り入れたい方
- ☐ いろいろな人と保育観を深めたい方
- ☐ 将来保育士や幼稚園教諭を目指す方

学べるテーマ

- * 子どもをみる視点
- * 実効性のある事故予防 リスクマネジメント
- * 自然保育下での非認知的スキルと運動能力
- * 環境を考えた自然保育の取り組み
- * フィールド素材の活かし方



日程

2021年度を通じ、全12回(各月1回ペース)各テーマに沿った講座を企画しています。

オンライン講座

12/18(土)

「自然の中で得られる子どもたちの運動能力について」

講師：居崎 時江



その他講座の詳細・お申し込みは、ひの社会教育センターHP

または 自然保育ゼミナール で検索を。



賛助会へのご協力 ありがとうございます ★順不同・敬称略

①個人会員 1口 1,000円

高山峰重 3口 柿田雅子 180口

②団体会員 1口 5,000円

日野混声合唱団 2口 多摩平卓球サークル 18口

寿楽会 2口 いにしえ体操会 1口

スマイルタウン発行：(公財)社会教育協会ひの社会教育センター

〒191-0062 東京都日野市多摩平 3-1-13 電話 042-582-3136

発行責任者：館長 入手喬

FAX 042-581-0647